

に狡猾で父の鼻に出来るものを何くれとなく盗んで賣つて居ました父は能く其事を知つて居ましたがヤコブスは猶止めずにだん／＼大ぎやうにそれをやりますから父は如何いふやうに所置してよいかと考へて居ました或時父の農具を買いにサドバレイに往ましたがさてこのサドバレイにゆくには二筋の道がムいまして一つはサドバレイ道一つは舊ポスト道と申しまして少しその方が遠ふいまして餘り通らない道でした然るに二三日前に盗人に大切な金をぬすまれて死ぬ程に弱つて居る老人があると聞きそれを訪ぬるためにポスト街道の方を撰んで参りましたが其日は幸ひにも雪があまり積つては居ませむ……この老人の名はミサ、エロルドと申して誠に可愛さうな人で一人の娘と一處に住つて居ました此ミサ、エロルド老人は少許の金を溜てそれ

を後生大事に箱に入れて寐床の下へしまつて置ましたそうですのに終に是を取られてしまひましたので……私の父は此老人を訪問するためにポスト街道をまいりましてやがて其家の近くへ参りましたところが不思議にも乗つて居ましたペサーが近頃此道を通つたといふ様な様子をいたしましてシヤン／＼馳て参りましたから父は驚きました一体父は馬に就て中々委しふいませゆるめてやりましたらペサーは慣て居る道のやうにズン／＼参りまして一つの小徑へまがり其からつぎあたりの古い赤門の前で立止まつて……父の下車するのを見てから門を入つてクルリとまはつて門に向つて立ました父は一言も申しませむで唯色々考へた未除々と家へ入りました

ら老人は火の側に手を拱ぬいて坐つて居まして半分泣ながら後  
 や前をろくとして金の盗まれた次貨を申しました父の今日ま  
 で此老人に一度も逢つた事は無いませむでした天性の白痴だと  
 云ふことは聞ひて知つて居ました父は色々盗まれた夜のことど  
 もを問ましたが何だかわけの解らぬ返辭をしてらちがあきませ  
 む……すると娘が口を出しまして「その晩は親父も私も日が暮  
 ると直ぐ寢床にはいりまして親父の方は下に寢て私は二階にふ  
 せりました處が十時頃に親父の叫ぶ聲や何だか下の方で逃走る  
 やうな物音が聞へましたから下へ参りましたら親父が寢床の上  
 に坐つて居て窓が開て居ました……親父にその次第を訪ねまし  
 たら親父が申しますよ何者とも知れず寐て居る身軀の上への  
 つて蒲團を口へ押込んで床の下から箱を引出してそれを持つて

逃てしまつたこの事ですから急いで戸口の處へ馳ていつて見ま  
 したら盗人の蔭も形も見へませむで……又その暗は真晩で……  
 雪が少し降つて……夜の明てから家のまはりを調べて見ましたが  
 足趾も何もわかりませむでした  
 との話し父がまだこの老人の處に居ましたうちに此家の近處に  
 住める人々が老人を慰めやうと思つて参りましたから父はこの  
 家を辞し自分の用を辨じたる上直ぐに宅に歸りました……する  
 とヤコブスがなんだか心配ううな様子をして廊のところに立つ  
 て居ました……何か父に話したい用事があると申しましたから  
 父は車の始末をつけた上に用事を云へと申しましたらヤコブス  
 は滋々馬を櫛からはなしてザット取かたづけたりへ口に烟管を  
 くはへたまゝノツク歩ひて……父が廊の腰かけにこしかけて

居る處へ参りまして「西部地方へ参りますから直ぐに解雇して下さい」と云ひ出しましたその時父はヤコブスに

「宜しひ併しその前に勘定をしなければならぬと申して隠袋から金は申すに及ばずカラスムキその他種々の穀物等を市場へ賣りかし金銭を欺き取しことを逐一書付た紙を出して目先はつきつけましたらヤコブスは大に縮みあがつて赤面し是迄自分が上手にやつたから決して知れる事はないと自分できめて居たことのはづれたを遽かに後悔したやうでしたところが父はヤコブスにお前に長い話があるから其處へ坐れと申して其から一時半程日頃の悪事を逐一はなして聞せましたらヤコブスはまつたく降参したそうで……父はまた青年の取べき路は二つあるがお前は其の悪い方を撰むのだ一体お前は賢いばうだから今か

ら善道に移りたいならうつる事が出来る併しその儘で漸々世を欺ひて進み終には世界中をあざむいても發見せらるゝ事はないと思ふ様になれば唯前途は牢屋が戸を開いて汝をまつばかりだか若し正直な道を踏むで眞人間にならうとなら出来るだけ力を盡してやると申してその紙を裂き是で勘定は帳消だと申しました

ヤコブスは二十三位でしたが此時まるで赤子のやうに泣いたさうです又父はヤコブスに左の事を申し聞せました馬のペサーが盗難のあつた老人の家の方へ……その道を知らない筈なのに……その以前にさむその路を通つたやうな風をしてズン／＼とゆきしこと門前に立止まつた事家へ入らないで入口に歸るやうな様子をして待つて居た事又父が櫓にのるや否や一散に馳出した事

など老人の家へ賊がはいつた事や、ゴブスがペサーを借りてヤンクシヨンにいつた事及び馬が汗を流してまるで遠方からでも歸つたやうであつた事などを語りました。ヤコブスは両手を顔に押あてて「既へ坐りましたから頼て父は其處を出たそうです。翌朝ヤコブスは平常の通りの様子をして他の人々と共に働き西の方へゆく事に付ては何とも申しませむでした。此日の午後と思ひました……一人の農夫が門前を通行し父に禮をしてゆき過ぎました。たのを父は何と思つてかこれを呼び止めて何か珍らしひ事はありませむかと問ひました。すると其自性は「わのミサエロルドの盗まれたといつた箱が夜中何時だか戸口の處へ返してあつたといふこと……そればかりでなく金が其儘箱に入つてあつて不足のないこと近隣の由乙が其金を銀行へ預けた方がよいと申した

ので老人も其氣になり、朝其金を銀行へ預けたこと其前の晩は近處の人々が金の番人に参りました」との話をして、父は此事を聴きました。それから男供の乳を搾り仕事をして居る時にまた話して聴せましたら、ヤコブスは出来るだけ知らぬ顔をして居たそうですが、併し其からヤコブスはまるで變つた人間になりました。正直な人間になりたいといふ決心を言葉でい餘り申しませんでした。でしたが其行でわかりました。一体ヤコブスは常に不平をいふ男でしたが、今は全く變つて能く人を助ける男になりました。父も今ではヤコブスを手離すのは惜ひと思ふ程になりました。ロラさんは非常に喜んで此話を聞きました。而して熱心になつて「ハレイさん其人は今何處に居りますか如何いふ人になりましたか

と問ひましたらハレイさんは可笑がつて笑ひました私も目を張つてハレイさんを見ました其からハレイさんは又話を始めて申ししますに

「私は此事件の結果まで臆へてをりますからお話しするといたし  
ましやうその盗まれた金箱の事件がカドバレイ通りの大評判と  
なりまして而してエロルドの娘の頭の毛といへば白くて並の娘  
ほどの容色はなかつたのですがそれでも人氣といふものはきた  
いなもので其近處の若い人々の中で甲乙數名より結婚を申し込  
むだそうで……其内例のヤコブスもろの一人であつたに相違あ  
りませむ

此春ヤコブスは眞白な顔をして父の處へ來て老人ミサ、エロ  
ルドの娘と結婚をいたしますから暇をいたしたいと申して町

噂に禮を述べて歸りました母はヤコブスが歸つてから父に向ひ…  
…ヤコブスが此度結婚をいたしますのは先の金の箱を復得て正  
當に使用ふといふ考へがあつてか先に老人を大變驚かしました  
から此度は万事に氣を付けてそれをつくなふと云ふので結婚を望  
みましたのか又他に理由があるとのお考へでもムリますかと問  
ましたそうで……終にヤコブスの結婚の日が参りましたゆへ兩  
親はろの席へ臨み父はヤコブスに牛一鞭と母の娘の方に麻布を  
澤山やりました私は其夫婦が生涯幸ひに暮すだらうと思ひます  
ヤコブスは片時もはなれずに老人の養父とろの娘を世話いたし  
て荒はてた畠を骨折つてよくたがやして……遠からず新らしい  
家をも建るといふことところこれらはたしかに建ねばならぬとい  
ふ事をも聞きました

第十六章

旅より歸りし事

東洋では秋の景色を淋しひと申しまして詩や歌にも詠じませうです  
 が一年の中で秋の景色が美しいものです別て田舎は……私共はこのう  
 つくし景色をあとにのこして十月にどうく歸宅いたしました此時  
 ロラさんは歸るのがいやさうで歸りまする事を申しますと悲しひ様な  
 顔をなされましたが併しロラさんは達者になつて顔はまるでイナゴの  
 様赤色にもなりその上に學問勉強の必要もありましたから是非なく  
 まづ歸られました

私共は歸宅いたしましやうとしてステーションへ参りましたところ私  
 は箱に入れられて荷物車に入れられましたその時ワード氏はその車の  
 掛の者に向ひ此犬は能く解るから若し深切に扱ふてやらないと新聞に  
 出さるゝやうな事が出来ると申しました掛員は笑つて居ましたがフェ

ヤポルトへ往く途中度々私の箱の處へ来て深切に聲をかけて呉ました  
 から淋敷もなくピクピク懼るゝ事もありませむ……頓て私共が歸り着  
 ましたらモリス家では大そう皆様が喜びました此時丁度他の仿ちやん  
 等もみな旅行先より歸つて居まして互ひに機嫌よく仲のよい事は無類  
 と申してもよい位……私は足を能くこすつて貰ひましてから皆様に接  
 接をしたのち自分の同伴の處へかけていつて足を出しましたらシムと  
 小さいビレは私の顔をなめましたビレは「ヨヨさんお目にかゝつて  
 嬉しうみます御愉快でしたかお休暇はいかいでした」と申しました  
 それから冬になりましてからロラさんは學校へ通學なされました毎日  
 小わきに本を澤山抱へて歸つて参りました……田舎で夏を過したのが  
 ロラさんのからだの爲にふいそう宜しうなりました其他に理由があり  
 ましたか知ませむがロラさんの母さんは度々白い顔のロラが栗色のや

うになつたと喜んで申しました

### 第十七章 大尾

私は最早此章でお話をやめまじやう私が始めてこの身の上話しを書き始めますときは迄の生涯は出逢ました事柄を一つのこらす書載やうと思ひましたか併しさよういたしましたら餘り話しが長くなりましてロラさんも其他皆さんもお讀なさりますまいと思ひますから残念ながら此章で話しを結ぶといたしまじやう

私がモリス家に参りましてから毎年面白い愉快なことがふいましてが其等を初めロラさんや兄弟等がだん／＼成長して今日の成人にたなりなつた事を一々書度も前の次第で略しますが只かいつまで……私の心の中でどうも略ませむ大切と思はる／＼だけの事柄をザット書記して御覽に入れます

私がモリス家へなつたりましたとき一歳でしたが最早十二才になりました私は自今のところモリス御夫婦と同居いたしましたむが愛するロラさん即ち今のクレオ夫人と一處に居ますので……ロラさんは御承知の通り四年前はハレイさんと結婚いたしました仲よくお二人は一處に住つて居ますウーノ氏御夫婦はデンクレーツマに住つてその近くにモリス氏御夫婦もお住ひですがモリス氏は以前の様に壯健でムいませむから最早説教はいたしませむ小供さんたちは皆成長なされて今でいめい／＼別居なされまして……シヤツクさんはドロラ家の美しひべせさんと結婚してドロラ家の近處に住つて大そう大きな島を所有して居られます一休べせさんは農業者の家内になるのは嫌だと申しましたが今では右の如く澤山田島を所有してたがやし……たしかに幸ひそうな満足な様子で居られます……して見ますと嫌だと云つた以前の言葉はあまり當に

はなりませむこれも皆神様のなされまますわざか人間でも先の先まで  
 解りませむものでしやうカールはニウヨルクで商人になつて居ますし  
 ナッドは銀行で書記をつとめて又ウヰリーはハーバードの大學で勉強  
 して居ますが卒業した上は両親と一處に住うつもりであると申しまし  
 たモリス家の古いなじみの人々の不相變たびくモリス家へ音づれま  
 すがドロラ夫人は毎年夏ニウーポルトへゆきがけに立寄モンテロー夫  
 人とチャーレーはブリスクといふて私のやうに年取つて弱つて居る  
 犬を連れて毎夏参りました私はこの古いなじみの方々の御出の時様側  
 坐つて居ましてモリス家の人々の昔話を聞かすと何だか若がへつた  
 様な氣持がいたしましたグレイ家にスコツドランド産の犬が一匹居ま  
 してその犬はたいそう奇麗な犬でロラさんについて何處へでもゆきま  
 すし其犬と私は大層仲が好うムいます私よりも走り回つたりする事

はなかく達者で私などはとても及びませむ……ある時ロラさんのお  
 友達が小さい男の子と女の子を連れてまわりましたときスコツトラン  
 ド産のこの犬が二人の間へ戯れて入こみましたすると此小供等のお父  
 さんがコマツクといふ早取寫眞器で其狀を寫し取ました

この犬はロラさんの嫁きたる家へ遊山に

モリス家の兄弟等が春の日長に此許(ロラさんの嫁きたる家)へ遊山に  
 お出になります時には色々面白くなぐさみごとを致して遊びますから  
 此古びた淋しひ百姓家もにはかに賑やかになりますそれゆへ私共は長  
 の冬中皆さんの來るのを待くらして居ますことで……マリスウエル氏  
 は夏になると屹度このリパテールへお出になりますか家畜を澤山かつ  
 て居られますから其を連ますとリパテールより先へは一步も旅行する



事がならぬから動物園でも設けなければ仕方がないと自分で申して居  
 られました。鵜鴫のピラはやはり以前の通り利口でモリス夫人と一處に  
 住んで居ます。一体鵜鴫といふ者は長命するもので……ある者などは百  
 歳にも達するほどだと云ふことを聞きましたが若しピラも左様なれば私  
 共よりもキット長命をいたしませしやう私が段々目もかすみ身もよわつ  
 て来たことをピラが知つて居て私がモリス夫人の所へでも参りますと  
 ピラは「美しいピラが知つて居て私がモリス夫人の所へでも参りますと  
 云ふ事は云ひなさいなやつぱり昔の通り元氣よく遊びなさい」と云ひました。  
 私はリバプールで此生涯を終るのは誠に嬉しむいふ事だと思つた。毎朝  
 も随分好い處でした。此島は様々な處はあつた。私は毎朝  
 天氣がよろしければ散歩をして馬や牛の居るところを参りたりまた屋  
 敷中にとどまつては雞が食物を拾つて居るのを見たりして樂しみに思

實に此處は幸ひな處です。私に於けるロラさんが私の死後ながく此  
 處にて愉快に白を送らるゝ事を今より望んで居るのです。此處に居つ  
 て唯すこし嫌な氣障なことは私が秋に島の中へ埋めて置きます骨を豕が  
 舐になつてこれをほりだして私を困らせませす事ですが併しそんな事は  
 些細な事ですから氣にもかけまいと思つて……それよりも私は此方で  
 骨を澤山のさるほど頂戴して居ますから却つて街で空腹で居る可憐さ  
 うな犬もありました。その一部を分配してやりたいと思ふて居ます。位で  
 います。

又一つこまることはハレイさんの馴した栗鼠が外の小屋に住んで居つ  
 てそれがたいそう私をいぢめますこと。……栗鼠は私がレウマナ  
 スのために足をなやんで彼を追かける事が出来ないのを知つてわざと  
 私の身のまはりを馳たり私の顔のそばで尾を疾く振つたりして自分が

さも活潑であるといふ事を見びらかして獨で嬉しがつて……若し本氣になつて彼を追かけますと彼はこれを見るや否や笑つて遣らうと思つてか色々人にイヤ犬にからかひます勿論栗鼠は思慮の深い者では無いませむから私も無頓着にして居ますやうなもの、時には困ると思ふ事もふりました彼の久しき以前にモリス家へ鸚鵡のピラを持つて來ました小使の青年は今ではモウ確りとした大男になりある船の重役よなりました此方へ参ります時はいつでも外國の菓實や其他色々な珍奇物を持参して以前の交際を温めて居られます

ロラさんは實に心のやさしひ御方ですが併し世の中に悲ひ事や困難なることに付ては餘り心配しない様にいたしてをられます何故かといへば心配しすおすと却つて自分の身体を弱くして慈善事業の爲につくうとするその精神をも遂ることが出来ないからと申して居りました

でもロラさんはこのリパデールでは數の擧られぬほどよい事業を澤山いたされまして……私は實にロラさんに感心いたしますロラさんの様に人より愛慕さるゝ方は此國のみならず隣國にも餘り多くはありますまい否少ない事と思はれますロラさんは數年前に心に誓ました……言語いへない私共のやうな動物を出来るだけ保護しやうといふ決心を今でも忘れませむハレイさんとマクスウェル氏は深切にも其事業の爲にロラさんを助けてをられます即ちマクスウェル氏はポストンに於て重にその働きにつき盡力しハレイさんとロラさんの實際にリパデールに於て動物保護のこの事業に従事して……今では他の都市の模範ともなるやうになりましたから従がつて色々な用事も増一日もリパデールを去る事が出来ませむゆへポストンの方は唯筆を働かして此方よりマクスウェル氏を助けました所謂東西相應じてたすけ合といふありさま

ワッパデールはたゞ此動物保護の事業について耳ならずその他の點に於ても他市の模範となるものが多くなりました……これらより見て考へますと總ての事の進歩といふものは動物にたいする仁恵に密接の關係の有やうにも思はれます彼の下等動物に對する注意心の人々相たがひの注意心を漸々進めるやうにもなりましやうから此小さいさい街も令では善備せる學校よき留前慈善事業及び教習の進歩等各州に名高くなりゆいあります多くの人は已れの小供を教育するためわざわざワッパデールへ引移つて参りますが一体ワッパデール固有の人々と他處より引移つて参りました人々を比較いたしますと大層様子が異つてをりますそれはワッパデールの人は一體品位が高ふりましたから論より二年程まへに一入の商人が此地へ來て店を開きまして……何かのはづみに一匹の小猫を家から蹴つて追出しましたのを見付られま

した然るにその翌日ワッパデール市民の議員等が此人の許に参りまして「拙者共は此土地より殘酷な所行を一拂しやうとの考へにて非常に困難し盡力をもいたすなり……若し動物に對して殘酷なことを爲す者は此市民の共に住を望まないとあるから他處へ引移る方相互の便利なるべし」と申し渡しましたら此人は非常に驚きまして此様な異つた人民のある事はまだ聞かなかつたと申しました  
此人は殘酷だとか又飼猫を注意してやるとか云ふやうな事については是迄露ほども老へませむでしたが此時から心が一變して自分が他人に蹴られる事を好まないから猫も其通り蹴らるゝ事を嫌ふは勿論であるといふ事をさとり猫に對しても目立つて深切をつくして参りました此人は此處の人々が動物にさへ斯くも深切でありますから人間にたいしても深切であるは勿論の事且つ小供の教育に此上なき善いところで

あると考へまして改めて此人より「若し斯る残酷な所業を自分で改め  
 まして當市民にして異存さへなくば住居いたしたい」と申し出ました  
 ところ悪い所業を改むるとの口上ゆへ無論市民は此人の請求をゆるし  
 ました此人は自來行をあらためて動物でさへあればいかなるもので  
 も深切をつくして徳高き名だかい人となりましてクラさんより慈善事  
 業について寄附金でも乞ますといつでも卒先して喜捨いたしました  
 クラさんが常に申しますには「若し人たるもの男女にかゝはらず下等動  
 物にたいして深切であるならば必らずや意外の幸福を受ましやうまた  
 動物も其人に對して實に感謝と眞實を以つて盡すならむ」と  
 さて私は最早是丈で眞個にこのお話しの終りを結びます此本を讀んで  
 くださる皆さん左様なら……御機嫌能う……若し犬が申してもさしつ  
 かへムりませむならば「神よ汝方を祝し給へ」と申したうムいます此拙

き小さい私の物語も犬その他の動物にして人に飼れたる者は皆その  
 主人を愛したゝその主人の心になふことを以つて喜びとして居ると  
 いふことをあなた方に知らせます事が出来ますなら無上の幸福です  
 無限の幸慶とぞんじます終りに又一言を遺しますが其は左に記しまし

やう

「總ての動物に深切なるべしされどその深切よ由つて自ら利益を  
 得んとするは不可なり如何となれば彼等も動物凡ての物を造り  
 し慈愛の御手によつて造られたる者にして總ての動物に對する  
 深切は銘々人間の義務なればなりと

明治三十年二月十三日印刷  
明治三十年二月十七日發行

定價 金貳拾錢

譯述兼  
發行者

倉澤道子

東京市小石川區小日向水道端町  
二丁目五十番地

印刷者

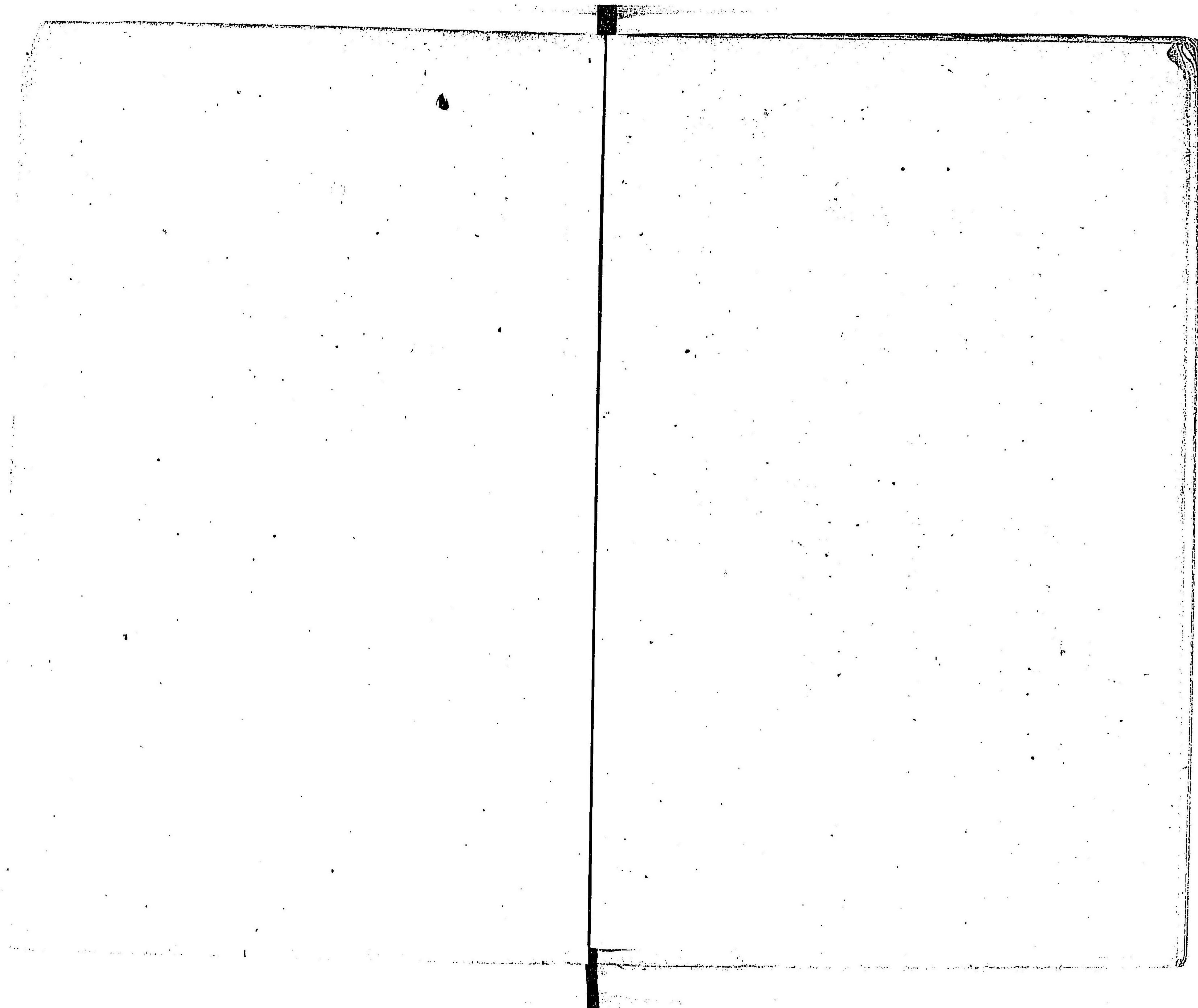
金木芳藏

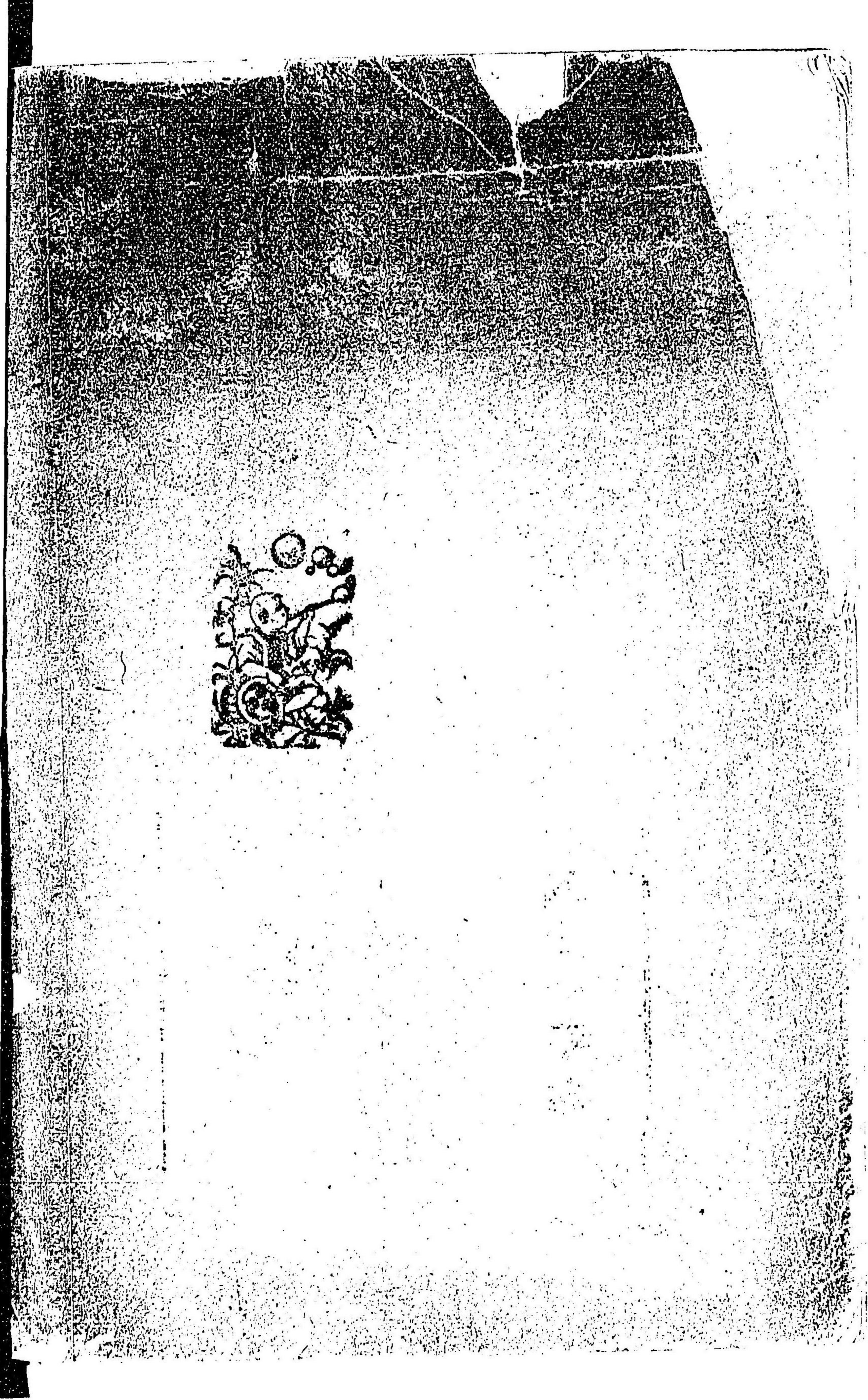
東京市神田區今川小路二丁目四番地

發賣所

東京築地五十一番館  
清水書店

東京市神田區今川小路  
二丁目四番地





發賣

東京築地五十二番地

犬の草紙

205031-000-8

特69-285

犬の草紙

マルシアル・サンダース/著

M30

EDV-0023

